

日本電子音楽協会

# 第五回定期演奏会

1997年4月29日(みどりの日)

開場：午後2時30分

開演：午後3時00分

仙台市青年文化センター

主催：日本電子音楽協会、同宮城支部

共催：仙台電子音楽協会

協賛：ヤマハ株式会社仙台支店、財団法人ヤマハ音楽振興会仙台支部

後援：宮城県、仙台市、宮城県教育委員会、仙台市教育委員会、宮城県文化振興財団、  
仙台市市民文化事業団、NHK 仙台放送局、東北放送、朝日新聞社、河北新報社

## プログラム

寺井 尚行：ROM

José Manuel López López：SOTTOVOCE（招待作品）

岡崎 光治：緋昏(hikon) -シンセサイザーの為の

Synthesizer：石垣弘子

休憩

大河内俊則：monomedia

南 弘明：語りと電子音による「蜘蛛の糸」

千住 明：ヴァイオリンとシンセサイザーのための「聖歌」1997

Violin：千住真理子

## 作品解説

### ROM

ROMとは、ご存じのとおり、書き換えが出来ないメモリ、現在、かなり安価になってますが、今後さらに安くなって、大容量のメモリが自由に使えるようになった時・・・が来なければ、この作品はやはり架空のものかも知れない。

### SOTTOVOCE

この曲は1994年、パリのIrcamの委嘱により作曲された。作曲者にとってフランスでの委嘱の第3作目である。元来は4つの声と4チャンネルの合成音響のために書かれた作品だが、テープでの演奏も可能である。

### 緋昏(hikon) -シンセサイザーの為の

シンセサイザー、SY99のシーケンス機能を用いた自動演奏と、シンセサイザー奏者の演奏とのアンサンブルという形の曲である。奏者に与えられている音は、奏者の打鍵のスピードで様々な変容するように作られており、音の一つ一つをどのような表情で演奏するのかという事は奏者に委ねられている。

### monomedia

この作品には何も新しいものはない。ピアノのシーケンサーによる自動演奏。ただそれだけである。「音楽」という言葉について、客観、普遍、一意、絶対、唯一の定義があるとすれば、そもそも「音楽」ではないかもしれない。人は、健康なとき自分の体を意識せずにごろごろしている。無意識のうちに進行していくことが、人にとって健全なシステムであるとする、と、「音楽」とか「自分」などについて、意識が及ぶことは由々しき問題かもしれない。

### 語りと電子音による「蜘蛛の糸」

昭和52年に芥川龍之介の短編小説「蜘蛛の糸」をもとにアナログの電子音と朗読による作品を制作したが、今回の作品は昭和63年にデジタルの電子音によって制作しなおしたものである。「蜘蛛の糸」の朗読は電子音と対等の音素材として扱われるのではなく、終始、単なる朗読として扱われている。地獄と極楽、釈迦と健陀多はそれぞれ全く異なる世界に存在するが、蜘蛛の糸が両者の連絡を司る。しかし、健陀多の無慈悲な心によって、その連絡は突如断たれることになる。

### ヴァイオリンとシンセサイザーのための「聖歌」1997

今回のヴァイオリンの弦にはスティールではなくガット、すなわち羊の腸からつくった有機物を使用する。人間の心（あるいは生声）に近づけるためである。宇宙空間は電子におびている。その中で人の心は小さな存在になってしまうのか。

## 略歴

### 寺井 尚行

愛知県立芸術大学音楽学部作曲専攻卒業。同大学院修了。日本バンドクリニック委員を務めた経緯から、管楽器とコンピュータの融合を狙った作品が多く、Web上では、[midistudy](http://www.ccad.sccs.chukyo-u.ac.jp/music/terra/midistudy/midistudy.html)(<http://www.ccad.sccs.chukyo-u.ac.jp/music/terra/midistudy/midistudy.html>)と言うページも開いている。作品として、ソプラノサクソとコンピュータの為の「Positive Sign」、吹奏楽の為の「Winding Air」、吹奏楽の為の「Noisy Sky」、「筑波万博開会式音楽」「山形国体開会式音楽」「愛知国体開会式音楽」などがある。現在、愛知県立芸術大学助教授。

### José Manuel López López

1956年生まれ。マドリードのコンセルヴァトワールでピアノと作曲と指揮を学んだ後、パリ第8大学とIrcamで学び、D.E.Aを取得した。作品はユネスコ作曲国際会議、国際現代音楽協会、ICMCなど、各国の重要なフェスティバルで演奏されている。スペインおよびフランスの文化省、Ircam、ミラノのStudio Agon、ラジオ・フランス等から委嘱を受け、1996年にはフランスのAFAAの要請で京都に滞在した。作品はTransatlantiques、Ricordi、Multifoniaから出版されている。

### 岡崎光治

1935年、旧満州国朝陽生まれ。東北大学工学部入学後、教育学部に転入、1958年同学部音楽専攻科卒。現在、宮城教育大学、尚絅学院短期大学などの非常勤講師。作曲活動以外にも様々なコンサートの指揮、企画などに携わっている。日本電子音楽協会理事、宮城県芸術協会理事、日本作曲家協議会会員、JFC東北会員、仙台電子音楽協会代表。主要作品：オペラ「鳴砂」、混声合唱組曲「古都千体村哀慕」、電子音による「碑の音」I~IX、オーケストラのための「緋曲」。混声合唱とピアノ・打楽器のための「いろはうた」、電子音のための「打の彩」I~III、「六分儀」など。

#### 石垣弘子

武蔵野音楽大学教育学部ピアノ科卒。今井紀子、中根伸也の各氏に師事。「仙台音楽祭サミットコンサート」、「アジア音楽祭 '92 in 仙台」、「東北の作曲家 '94 in いわきコンサート」、「アジア作曲家フォーラム '95 仙台」、「'94、'95 宮城県 芸術家協会音楽会」、「日本電子音楽協会第1、3回定演」、「いわき市立美術館コンサート」などのほか、仙台市内の大学及び一般合唱団の演奏会に、客演ピアニスト・シンセサイザー奏者として数多く出演している。

#### 大河内 俊則

1963年三重県生まれ。愛知県立芸術大学音楽学部作曲専攻卒業。施設音楽、舞台音楽などの制作を中心に活動中。現在岐阜県大垣市在住。電子音楽作品として「霧の中の相对」Ⅰ～Ⅱ、「a ruling passion」Ⅰ～Ⅱ、「心象風景」、「始めから果てしなく」等がある。

#### 南 弘明

昭和9年生まれ。東京芸術大学音楽学部専攻科修了後、ドイツ政府給費生としてフライブルク音楽大学に留学、ヴォルフガング・フォルトナー教授に師事。現在、東京芸術大学教授。主な作品は「ソプラノと管弦楽のための挽歌」「ソプラノと管弦楽のための七夕の歌」「シンセサイザーと管弦楽のためのオリオン」「電子交響曲第1～4番」など。

#### 千住 明

東京芸術大学作曲科卒業。同大学院終了。終了作品「EDEN」は東京芸術大学買い上げ。東京芸大作曲科助手、慶應義塾大学文学部講師もつとめた。映画「226」「RAMPO-インターナショナル」「わが心の銀河鉄道～宮沢賢治物語」ドラマ「高校教師」「家なき子」「人間・失格」「未成年」、アニメ「機動戦士ガンダム」、「NHKスペシャル テクノパワー」、CM音楽「アサヒスーパードライ」「JR 東日本」、など多数の音楽も担当、ポップスから純音楽までその活動は多岐にわたり、編曲家としても代表作に中森明菜のアルバム「歌姫」がある。第20回、日本アカデミー賞優秀音楽賞受賞。

#### 千住 真理子

3歳より鷺見三郎氏、12歳さいより江藤俊哉氏に師事。1973年全日本学生音楽コンクール・小学生の部第1位。75年第1回「若い芽のコンサート」に出演。77年第46回日本音楽コンクール・ヴァイオリン部門第1位。81年バガニーニ国際音楽コンクール第4位。85年慶應義塾大学文学部哲学科卒業。95年デビュー20周年コンサートを催した。93年「イザイ:無伴奏ヴァイオリン・ソナタ」の録音に対して文化庁「芸術作品賞」、94年度村松賞、95年モービル音楽賞・奨励賞を受賞。95年より「御殿場国際フェスティバル」の音楽監督に就任。著書に「ふだん着のトーク」「生命が音になるとき」がある。